福岡県の主な農産物の生産状況

令和５年４月 14 日現在
（専技情報より抜粋）

◇早期水稲（夢つくし、ｺｼﾋｶﾘ）◇
田植は４月 12 日頃から始まり、４月下旬が最盛期で、５月上旬頃まで行われます。
苗は、病害も見られず生育良好です。
移植前３～５日に苗をハウス外に出し、苗を馴化しましょう。
田植後、低温や風が強い場合には深水で苗を保護しましょう。

◇麦類◇
２月以降の気温が平年より高く推移したため、出穂期は平年より５～７日程度早いです。
４月５～６日の風雨により一部倒伏が見られたものの、穂数は平年並み～やや多く、生育は概ね順調です。
４月中旬までに赤かび病対策や穂揃期追肥作業が行われます。
収穫は、大麦で５月 10 日頃から、小麦で５月 22 日頃から始まる見込みです。
穂揃期追肥が未実施の場合は、速やかに施用しましょう。
生育が旺盛な場合は、穂揃期追肥の窒素量を１～２kg/10a 増肥しましょう。
赤かび病に弱い品種や、降雨や曇天が続き多発生が予想される場合は、１回目防除の７～10 日後にもう一度防除を行いましょう。
適期収穫が行えるよう共乾施設等の荷受計画を早めに作成しましょう。

◇イチゴ◇
３月の高温傾向により果実の成熟は早まり、３番果房の収穫は４月上旬時点で終盤となります。
現在、４番果房の収穫が始まったものの、成り疲れ等によりバラつきが見られ、出荷が出揃うのは４月中旬頃となる見込みです。
出荷終了は５月 20 日頃が予定となります。
病害虫については、ハダニ類、アザミウマ類、灰色かび病、うどんこ病の発生がみられます。
果実の品質低下防止のため、換気の徹底や適期収穫を行い、収穫後の果実は早めに低温の場所へ移す等の管理を徹底しましょう。

親株の炭疽病、ハダニ類等の病害虫対策、肥培管理等を徹底し、ランナーの発生を促しましょう。

◇スモモ◇
施設「大石早生」の開花盛期は、加温ハウスが３月６日、無加温が３月 13 日で平年よりやや早く、全般に結実は良好です。
露地は、開花盛期が３月 15～25 日で平年より早く、地域によるバラつきが大きいです。
開花期は曇りや雨の日が多かったものの、気温が高めで推移し、病害の発生も少なく、結実は平年並みとなる見込みです。
摘果は結実が完全に判明した時点から２～３回に分けて行いましょう。
灰星病や黒斑病対策を徹底しましょう。

◇ナシ◇
「幸水」の開花盛期は、２月以降の気温が高く推移したため、全体的に平年より早く、加温ハウスが３月 14 日前後で平年より１日、トンネルが３月 26 日前後で２日、露地が３月 31 日～４月１日で７日早いです。
「豊水」は、３月 29 日前後で、平年より６日早いです。
露地の一部で花腐細菌病の発生が見られたものの、黒星病の発生は少なく、生育は概ね順調です。
黒星病は、開花から 20 日後の幼果期で感受性が高いため、定期的な対策を徹底するとともに、薬剤耐性が発達しやすい薬剤の連用を避けましょう。

◇施設ギク◇
４月出荷の「神馬」は概ね順調です。一部、加温不足による開花遅延、柳芽等の発生が見られます。
６～７月出荷の夏秋ギク「精の一世」「フローラル優香」の生育は順調です。
また、８月出荷作型の定植が４月下旬から始まります。
ハウス外からの害虫の飛び込みに注意し、アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類等の害虫と白さび病の対策を徹底しましょう。
また、ウイルス病が発生した株は直ちに除去し、蔓延防止を図りましょう。

◇茶◇
「やぶきた」の萌芽期は４月２日で、平年より２日早いです（八女分場）。
八女地域平坦地の摘採は、４月９日頃から開始しました。
新茶初入札は、４月 14 日で、昨年より４日遅く、平年より１日早いです。

今後の生育は気象条件により大きく変動するので、芽の生育状況を十分に把握し、適期に摘採しましょう。

◇肉用牛・乳牛・豚・鶏◇
和牛去勢の枝肉価格及び省令価格は、需要の低迷が続いており、前年比、過去５年平均ともに下回りました。
４月の全国的な出荷頭数は全年同月より増加見込みです。
豚枝肉価格は、３月は花見など季節需要が期待されましたが、供給量は前年同月を下回ったため、前年比、過去５年平均比ともに上回りました。
４月の全国的な出荷量も前年同月をやや下回る見込みです。
鶏卵価格は、鳥インフルエンザが３月も全国で発生して供給不足が継続し、前年比 183%、過去５年平均比 182%と大きく上回りました。生産量等の回復は夏以降となる見込みです。
季節の変わりのため、子牛や豚で肺炎等の疾病発生に留意しましょう。
乳牛では日中の牛舎内温度 20℃以上を目安に換気扇など暑熱対策を実施しましょう。
購入飼料価格の高止まりが続いていることから、良質な自給飼料の確保に努めるとともに給与ロスの少ない飼養管理を徹底しましょう。